

CASBEE広島における重点項目の環境配慮設計概要

CASBEE 広島 2016年版

※下表の空欄に環境配慮設計の概要をコメントしてください。

配慮項目	評価点	重み係数	内訳							
■1.「地球温暖化対策」の推進										
1.1 建物の熱負荷抑制										
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。 ZEH(日本住宅性能表示基準における断熱性能等級5相当)を達成している	3.0 5.0	0.25 0.75	Q1 室内環境 LRI エネルギー	2 温熱環境 1 建物外皮の熱負荷抑制	2.1 室温制御 2 外皮性能					
小計	4.5	0.14								
1.2 自然エネルギーの利用										
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。 BEI=0.79	3.0	1.00	LRI エネルギー	2 自然エネルギー利用						
小計	3.0	0.05								
1.3 設備システムの高効率化										
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。 BEI=0.79	5.0	1.00	LRI エネルギー	3 設備システムの高効率化						
小計	5.0	0.26								
1.4 設備システムの効率的運用										
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。	0.0 0.0 3.0 3.0	0.00 0.00 0.50 0.50	LRI エネルギー	4 効率的運用	集合住宅以外の評価 集合住宅の評価	4.1 モニタリング 4.2 運用管理体制				
小計	3.0	0.10								
1.5 資源・マテリアル対策										
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。 LGSを採用し、躯体と仕上げ材が容易に分別でき、かつ、設備と仕上材が錯綜しないよう配慮している	1.0 3.0 3.0 2.0 3.0 3.0 1.0 2.0 5.0	0.10 0.11 0.05 0.08 0.15 0.15 0.15 0.08 0.15	LR2 資源・マテリアル	1 水資源保護 1 水資源保護 1 水資源保護 2 非再生性資源の使用量削減 2 非再生性資源の使用量削減 2 非再生性資源の使用量削減 2 非再生性資源の使用量削減 2 非再生性資源の使用量削減 2 非再生性資源の使用量削減	1.1 節水 1.2 雨水利用・雑排水等の利用 1.2 雨水利用・雑排水等の利用 2.1 材料使用量の削減 2.2 既存建築躯体等の継続使用 2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用 2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 2.5 持続可能な森林から産出された木材 2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	1 雨水利用システム導入の有無 2 雜排水等利用システム導入の有無				
小計	2.7	0.31								
1.6 ライフサイクルCO2排出率										
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。 ライフサイクルCO2排出率=47%	5.0	1.00	LR3 敷地外環境	1 地球温暖化への配慮						
小計	5.0	0.13								
1.「地球温暖化対策」の推進の評価										
	3.9	0.68								
■2.「ヒートアイランド対策」の推進										
2.1 温熱環境の向上										
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。	2.0 3.0 3.0	0.49 0.24 0.27	Q3 室外環境(敷地内) Q3 室外環境(敷地内) LR3 敷地外環境	1 生物環境の保全と創出 3 地域性・アメニティへの配慮 2 地域環境への配慮	3.2 敷地内温熱環境の向上 2.2 温熱環境悪化の改善					
小計	2.5	0.97								
2.2 交通負荷抑制										
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。	3.0	1.00	LR3 敷地外環境	2 地域環境への配慮	2.3 地域インフラへの負荷抑制	3 交通負荷抑制				
小計	3.0	0.03								
2.「ヒートアイランド対策」の推進の評価										
	2.5	0.17								
■3.「長寿命化対策」の推進										
3.1 耐用性の向上										
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。 日本住宅性能表示基準において劣化等級3を達成している 主要な内装材・配管に長寿命の製品を採用している	3.0 3.0 5.0 2.0 4.0 3.0 5.0 3.0	0.50 0.13 0.08 0.08 0.04 0.04 0.08 0.08	Q2 サービス性能	2 耐用性・信頼性 2 耐用性・信頼性 2 耐用性・信頼性 2 耐用性・信頼性 2 耐用性・信頼性 2 耐用性・信頼性 2 耐用性・信頼性 2 耐用性・信頼性	2.1 耐震・免震・制震・制振 2.1 耐震・免震・制震・制振 2.2 部品・部材の耐用年数 2.2 部品・部材の耐用年数 2.2 部品・部材の耐用年数 2.2 部品・部材の耐用年数 2.2 部品・部材の耐用年数 2.2 部品・部材の耐用年数 2.2 部品・部材の耐用年数 2.2 部品・部材の耐用年数	1 耐震性(建物のこわいにくさ) 2 免震・制震・制振性能 1 躯体材料の耐用年数 2 外壁仕上げ材の補修必要間隔 3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 4 空調換気ダクトの更新必要間隔 5 空調・給排水配管の更新必要間隔 6 主要設備機器の更新必要間隔				
小計	3.3	0.44								
3.2 設備の更新性										
(コメント) ※設計の計画上特段に配慮した事項を記載してください。 自天井内配管、床コロガシ配管を採用し、構造体を傷めることなく給排水管を更新できるよう設計している	3.0 4.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.2	0.20 0.20 0.10 0.10 0.20 0.20 0.20 0.56	Q2 サービス性能	3 対応性・更新性 3 対応性・更新性 3 対応性・更新性 3 対応性・更新性 3 対応性・更新性 3 対応性・更新性 3 対応性・更新性	3.3 設備の更新性 3.3 設備の更新性 3.3 設備の更新性 3.3 設備の更新性 3.3 設備の更新性 3.3 設備の更新性 3.3 設備の更新性	1 空調配管の更新性 2 給排水管の更新性 3 電気配線の更新性 4 通信配線の更新性 5 設備機器の更新性 6 バックアップスペースの確保				
小計	3.2	0.14								
3.「長寿命化対策」の推進の評価										
	3.2	0.14								
■重点項目の総平均(上記3項目)										
	3.6									